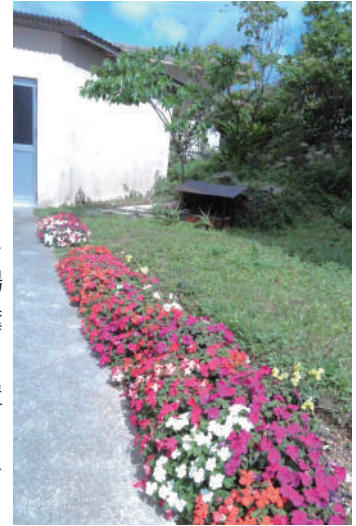


「木の根や生育中の苗を守る工夫」

自然素材を使用して癒しの環境を保つ方法を考案

令和3年3月18日
団体名：希望ヶ丘 猫対策会
報告者：井上 順三 廣瀬 孝一
中川 久美子

昨年度のグラウンドカバーの花を植える実験。奥に見えるのは猫トイレ。猫トイレを設置しないと猫は糞をする場所を変えるだけで、糞害の頻度自体は変わらない。猫トイレを設置し、人が管理することで他の場所での糞害を減らすことができる。



概要

[企画背景]

昨年度の実験で、猫が糞をしたくなるようなやわらかい土がある場所での糞害には、グラウンドカバーになる花を土が見えなくなるくらい隙間なくビッシリ育てることにより、猫が入ることができずに糞害もなくなることがわかった。この方法を実践した場所は、結果的に花壇を増やし花をしっかり育てることになり、副次効果として視覚で人を和ませることができた。

良いことづくめのような糞害対策法のように思えるが、この方法の大きな弱点は、「苗が土を覆い隠すまで育つまで」だ。耕された土が多く見える場所は猫が糞をしたくなる環境にある。

これを解決するために、前年度は、花壇内の糞をしがちな箇所に、プラ容器に入れた猫除け剤を置いて防いだ。この時は範囲が狭かったので準備も費用も容易で、糞害対策としても有効だった。しかし、花壇の規模が大きくなるとコストも増し、ごみの後始末も必要になる。そして花壇の中に猫を寄せ付けないために、多量の工業的な物が入り込むと、視界から受ける「和み」や「癒し」のイメージ低下は否めない。

①植物などの自然にある素材を使って ②簡単に ③安価で ④効果的な猫除け がないものだろうかと考えた。

自然な素材の猫除けは、作物の苗を植えた畑や果物の木の根元などを守るためにも最適だと考えられる。畑周辺の自然が多い環境では容易に手に入りやすい材料を使い、使い終わったら容易に処分できる。そして、工業的な素材を使用した猫除けでは損なわれがちな牧歌的なイメージも保つこともできる。

[考察と結果]

「自然素材を使った猫除けの案山子の作成」や「自然素材を使った柵」などのアイデアはあったのだが、これらは安価にはできても簡単にはできない。猫除けの効果としても期待が薄いと考え、実験には採用しなかった。

今回は、「土に茎や枝などで障害物を立てる方法」と「小枝をまとめて木の根本に積む方法」を試す。この2つの方法は物理的に猫が糞をしそうな場所に入ることが出来ないため、100%の効果があつた。

生育中の苗を守る工夫

サンニンの茎で生育中の苗を守る

花の苗を植えたばかりの花壇や、野菜の苗を植えた畑は、柔らかい土が多く猫が糞をしたくなる状態にある。水撒きの回数が多く常に土の水分が多い状態だと猫が嫌がり糞害は極めて少ない。しかし必要以上に水分が多いと苗を根腐れさせてしまう。そこで、サンニンの茎を使って簡単な猫除けを作る。

[対策方法]

1. サンニンの茎を用意する

サンニンなどの野山に多く生えている植物や木の枝を用意する。土に挿して使用するため、サンニン以外の植物や枝を使用するときは、根が出ないものを選ぶこと。

2. 葉を落として茎をカットする

長さ 20 センチくらい。実験では片方の先を斜めにカットした。



3. 苗の周りにサンニンの茎を挿す

2 で切ったサンニンの茎を下の画像のように土に挿す。サンニンは枯れると固く茶色になるが、腐りにくく枝のように固い。花だけでなく野菜の苗の周りにもお薦め。(図 1 参照)



4. 使用しなくなったサンニンの茎は土に戻せる

サンニンを処分するときは土に埋めれば良いのでごみに出す必要がない。堆肥にする場合は、サンニンの茎や木の枝は固いので細かくすると良い。

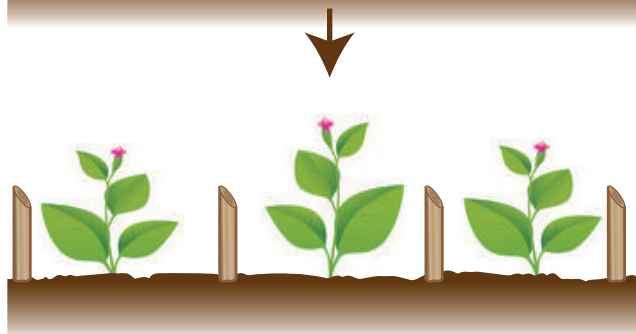
生育中の苗を守る工夫

サンニンの茎で生育中の苗を守る

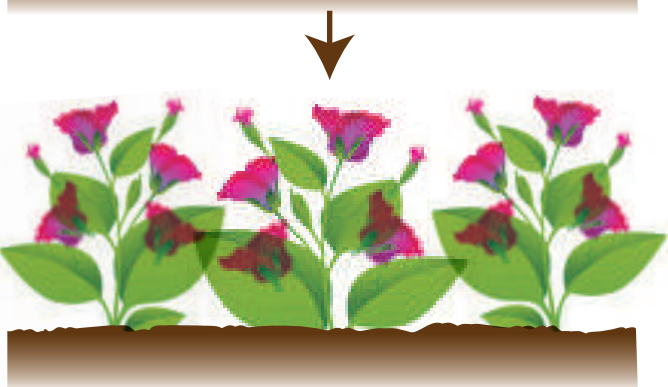
[図 1]



苗の周囲の土に 10 センチ～ 15 センチ間隔でサンニンの茎を挿す。



苗が育ってきたら苗の周りのサンニンの茎を抜いて調整していく。



花が育って土が見えなくなってきたらサンニンの茎がなくても猫は花壇に入れなくなる。



中に猫が入れないくらいに花が隙間なく育った花壇。1 と 4 は自治会館の花壇。2 と 3 は井上邸の花壇。

木の根を守る工夫

小枝を集めて樹木を守る

木の根本は猫が好む場所のひとつ。陰になっている場所だと糞害も多い。特に果樹や花木の根本に堆肥を埋めるときなどは、雑草を取り除き根本の土を柔らかく掘り返す。この時に特に猫が糞をしたくなる状態になる。また、木によっては猫が爪とぎ場所にする場合もある。そこで集めた小枝を木の周りに積み、小枝の小山を作って猫が入れなくする。棘のついた猫除けシートと同じ方法だが、猫除けシートは使用しても効果がほぼなかったのに対し、小枝を使用したこの方法は完全に猫が入れなくなった。

[対策方法]

1. 小枝を集める

剪定した後の小枝や、野山で拾った小枝を集める。枝分かれが多いものが適している。量はカバーしたい範囲によって違うが、保護する木 1 本に対して 1 平方メートル程度。ブーゲンやバラやハナマツリなどの棘が多い植物だと、扱う時に人もケガをしがちなので避けたい。

2. 集めた小枝を保護する木の根本に敷くように積む

画像のように無造作に積んでも良いし、集めた枝を何度も使用するのならば束にして、自然素材の椰子紐や麻紐で縛って積んでも良い。これを置いた場所は完全に猫が入らなくなった。

3. 使用しなくなった枝は土に戻せる

2 で椰子紐や麻紐を使用した場合、ナイロン繊維と一緒に紡がれている製品は土には返らないので注意。枝を堆肥にする場合は、固くて分解に時間が掛かるのでなるべく細かくする。



上：大粒に実った廣瀬邸横の畑のアセロラの実。

小枝を集めて猫除けにしている廣瀬邸横の畑。自然に風景に馴染んでいる。

猫除けを施す場合に効果的なのは一緒に猫トイレと猫糞を使用した堆肥造りをする。右上：赤井家に設置した猫トイレとコンポスト。

